

看護師等養成所の 運営に関する事例集

～魅力的な看護師等養成所づくりのために～

令和7年度厚生労働省委託事業
「地域強化型看護基礎教育カリキュラム調査検証事業」

目次

はじめに _____ 4

事例

大分類	取り組み内容	学校名	ページ
1. 学生	広域を対象としたオンライン説明会	旭川高等看護学院(地域看護学科)	5
	地域への保健師の輩出	旭川高等看護学院(地域看護学科)	6
	学生確保に向けたSNSでの魅力発信と効果測定	浜田医療センター附属看護学校	7
	オンライン入学試験	四条畷看護専門学校	9
	オンライン説明会や面接授業を活用した学生確保	専門学校麻生看護大学校	10
	多様な入学者の受け入れ	朝霞准看護学校	11
	学生の状況に合わせた授業時間調整	朝霞准看護学校	12
	入学候補者のニーズを捉えた情報発信	ポラリス保健看護学院	13
2. 教員	教員の働き方改革と研修機会確保の両立	愛仁会看護助産専門学校(助産学科)	14
	業務効率化と風土醸成を通じた教員の働き方改革	浜田医療センター附属看護学校	15
	教職員の働き方改革	厚木看護専門学校	17
	教員によるDX推進	厚木看護専門学校	18
	教員ラダーの活用	奈良看護大学校	19
	卒業生ネットワークを活用した教員確保等	朝霞准看護学校	22
3. 教育	地域の健康課題を考える実習	旭川高等看護学院(地域看護学科)	23
	学生の主体的な学習を支える「サポートアワー」	愛仁会看護助産専門学校(助産学科)	25
	養成所と臨床における人材交流	愛仁会看護助産専門学校(助産学科)	26
	院内アルバイトやボランティアを通じたコミュニケーション実践機会の提供	浜田医療センター附属看護学校	27
	ICTの教育現場での利活用	厚木看護専門学校	29
	チューター制度	砂川市立病院附属看護専門学校	31
	4年制を活かした教育内容	奈良看護大学校	32
4. 実習施設	地域づくりを学ぶ「地域の未来プロジェクト」	ポラリス保健看護学院	34
	母体病院や地域特性を活かした実習展開	浜田医療センター附属看護学校	36
	学生の状況に合わせた実習先の選定	専門学校麻生看護大学校	38
	実習先との綿密な連携	朝霞准看護学校	39
5. 施設・整備	遠隔授業等を活用した合同カリキュラムの実施	浜田医療センター附属看護学校	40
	多職種連携を意識した合同授業	四条畷看護専門学校	42
6. 管理・経営	経営理念の浸透	厚木看護専門学校	43

各大分類の説明

本事例集には、記載内容に応じて、以下のインデックスを表示しています。

各大分類は、「看護師等養成所の運営に関する指導ガイドライン」(最終改正：令和7年2月25日 医政発0225第7号)を参考に構成されています。

大分類	大分類の説明	旭川高等看護学院	愛仁会看護助産専門学校	浜田医療センター附属看護学校	厚木看護専門学校	砂川市立病院附属看護専門学校	奈良看護大学校	四条囃看護専門学校	専門学校麻生看護大学校	朝霞准看護学校	ポラリス保健看護学院
1. 学生	<ul style="list-style-type: none"> 学生確保に向けた取り組み 学生の就職・進学支援の取組 	●		●	●			●	●	●	●
2. 教員	<ul style="list-style-type: none"> 教員の確保・業務効率化に向けた取り組み 		●	●	●		●			●	
3. 教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育内容 学生の能力向上のための取組 	●	●	●	●	●	●				
4. 実習施設	<ul style="list-style-type: none"> 実習における工夫 			●					●	●	●
5. 施設・設備	<ul style="list-style-type: none"> 学習環境の整備・活用に関する取組 			●				●			
6. 管理・経営	<ul style="list-style-type: none"> 養成所の運営に関する取組 				●						

はじめに

令和2年度に「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」の改正が行われ、令和4年4月から新カリキュラムが適用されています。社会の急速な変化、とりわけ患者ニーズの多様化に伴う在宅医療の増加や、地域で療養する方々への包括的なケアの必要性の高まりを踏まえると、看護職員には地域・在宅の現場でも確かな力を発揮できる実践力が一層求められます。さらに、18歳人口の減少、基礎学力の多様化、教員不足等、養成の現場を取り巻く構造的課題に対応しながら、学生一人ひとりに合わせた学習支援と、選ばれる魅力的な養成所づくりを進めていくことが重要です。

今回のカリキュラム改正に向けては、地域での実習を含む教育内容および教育方法の継続的な検討・改善を重ね、社会のニーズに的確に応える看護人材の育成を加速する必要があります。

本事例集では、教育内容および教育方法、地域・在宅領域を含む実習や学内外連携の工夫、学生の学習支援、教員体制・業務改善等に関する実践的な取組を掲載しています。とりわけ、本事例集は養成所に具体的な好事例の情報を提供することで、より魅力的な養成所づくりを後押しすることを目的としています。

そのため、これから新たに取組を開始する養成所の参考となるよう、取組の背景・課題、取組の実施内容、取組開始後の効果・成果、参考資料等を、現場で直ちに活用しやすい形で簡潔かつ具体的に整理しました。可能な限り具体的な手順や図表、学生・教員・実習施設の視点からのコメント等を盛り込み、取り組みの導入や改善に直結する情報提供を心掛けています。

本事例集に掲載する取組は、地域の医療資源、学生規模、教員体制等の前提条件により実施の方法が異なる場合があります。活用にあたっては各養成所の実情に合わせた調整を行い、関係法令、ガイドライン、実習施設との協定や倫理面の配慮を踏まえて運用してください。

本事例集が、全国の看護師等養成所における教育の質向上と学習環境整備を後押しし、地域医療を支える人材育成とともに、選ばれる魅力的な養成所づくりの実現に資することを願います。次回カリキュラム改正に向けた議論や、各養成所の自律的な改善の取組における実践的なヒントとして、ご活用ください。

広域を対象としたオンライン説明会

基本情報

学校名	旭川高等看護学院	養成課程	保健師
教員数	4名	学生数	1学年 30名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和48年に看護師課程を開学し、その後昭和62年に保健師課程を開設し40年弱の歴史がある。 北海道立の高等看護学院は3校あり、他校は看護師養成の看護学科のみの設置で、本校は北海道で唯一の道立保健師養成所である。 		

背景・課題

- 保健師課程の入学対象者は、看護大学及び看護師養成所の学生または既卒の者であるが、唯一の道立保健師養成所ということもあり、入学志願者は道内各地の広域にわたる。
- 日々の学習や保健師活動の魅力等を、学生とふれあいながら知ることができるのがオープンキャンパスの利点であるが、北海道は広域のため、旭川周辺以外の者が本校に来校するのは困難である。

取組の実施内容

- 地域看護学科のオープンキャンパスは、広域の志願者が多いため、現在はオンラインのみで開催している。
- 他に道立高等看護学院3校合同でのオンライン入学説明会や、主に高校生を対象とした看護師・助産師・保健師職業説明会を開催し、保健師(という職業)の魅力を訴求するよう心掛けている。

取組開始後の効果・成果

- 対面でのオープンキャンパスでは参加が難しかったような、遠方の方や社会人の方のオンラインオープンキャンパスへの参加が増えており、幅広い対象者へ魅力を発信することにつながっている。

地域看護学科オープンキャンパス案内チラシ(抜粋)

2025 北海道立旭川高等看護学院
地域看護学科

オープンキャンパス

2025年7月25日(金)
Zoomによるオンラインで開催します

当日の内容 (13:00~受付できます)

13:30 開会・オリエンテーション
13:35 教育内容、地域看護学科の1年間、事前質問の回答等
14:10 保健師学生の一日常(仮)
14:20 在学生との交流 (Zoomのブレイクアウトルームの機能を使いグループに分かれます)
15:00 閉会

★対象：看護大学及び看護師養成所の学生又は卒業している方
★定員：50名
★受付期間：2025年6月12日(木)～7月19日(金)まで
*定員を越えた時点で締め切らせていただきます。
★申込方法：下記URLもしくは二次元コードから申込ください。
記入事項：①参加者名前 ②学校名 ③在学生 or 卒業生 ④学年 ⑤電話番号 ⑥メールアドレス
⑦在校生との交流への参加希望 ⑧オープンキャンパスをどこから知ったか ⑨質問・不明な点

<申込用URL・二次元コード>
<https://www.harplg.jp/SQf5T1xX>



保健師の勉強してみませんか?



出所：旭川高等看護学院ホームページより

地域への保健師の輩出

基本情報

学校名	旭川高等看護学院	養成課程	保健師
教員数	4名	学生数	1学年 30名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和48年に看護師課程を開学し、その後昭和62年に保健師課程を開設し40年弱の歴史がある。 北海道立の高等看護学院は3校あり、他校は看護師養成の看護学科のみの設置で、本校は北海道で唯一の道立保健師養成所である。 		

背景・課題

- 本校の講義には全道各地で活躍している保健師から、先進の実践事例及びモデルとなる保健師の活動が学べる環境にある。
- 令和7年度は道内約100の自治体(北海道、各市町村)から約200の求人募集があり、求人は増加している。
- 入学当初から求人情報があり、学生は、自己の保健師観の形成よりも先に就職場所の選択を迫られる状況である。学生は、北海道の広域性という地域特性から、地元以外の道内の市町村について十分に把握していない。

取組の実施内容

- 平成28年より、5月頃に求人希望の自治体担当者に来校してもらい短時間の就職説明会を実施している。これは学生が自治体担当者と直接会って、様々な市町村における地域特性に応じた取組を知ってもらいたく始めたものである。
- 自治体(市町村、道立保健所)に勤務する卒業3年目の保健師や、北海道庁、道立保健所に勤務する保健師を講師とした就職セミナーを開催し、学生時代の就職活動や保健師の活動状況を説明している。行政保健師の体験を聞き、交流することで、保健師の仕事の魅力や面白さを身近に感じ、就職への意欲が高まっている。
- 市町村実施のインターンシップにも、学生ができるだけ参加できるよう情報の取りまとめや学生への周知など工夫をしている。

取組開始後の効果・成果

- 学生にとっては、多くの市町村の特色を知ることができるとともに、保健師活動の様々な役割や機能を理解できるという効果がある。また、学生が「自分がどういうところで働くとよいか」を考える機会となっている。
- 保健師希望の学生は100%保健師として就職している。

近年の就職先

北海道／苫小牧市／留萌市／滝川市／芦別市／士別市／帯広市／当麻町／上富良野町／美深町／奈井江町／秩父別町／豊富町／小平町／苫前町／増毛町／由仁町／洞爺湖町／森町／七飯町／安平町／厚真町／新冠町／湧別町

出所：旭川高等看護学院ホームページ

学生確保に向けた SNSでの魅力発信と効果測定

基本情報

学校名	浜田医療センター附属看護学校	養成課程	看護師3年(修業年限3年)
教員数	11名(教務助手含)	学生数	1学年 40名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和28年の開設以来、当地から島根県のみならず全国の医療機関に多くの卒業生を輩出してきた伝統ある看護学校である。隣接する浜田医療センターは、高度急性期医療を担う島根県西部の中核病院であり、多くの卒業生が勤務している。 		

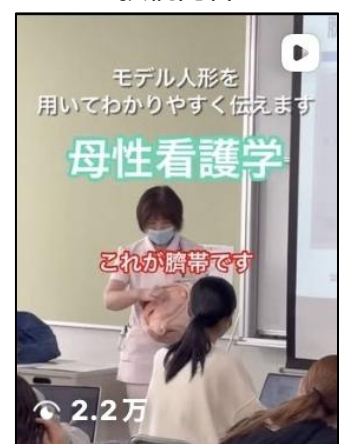
背景・課題

- 本校が所在する島根県西部地域においては、高校の学生数自体が年々減少してきており、定員割れしている高校が8割となっている。
- 島根県西部から広島県へつながる浜田自動車道が1991年に全線開通し、さらに島根県西部から島根県東部へつながる山陰道が2025年に開通したことを受け、県東部や県外への人口流出が加速している。
- 本校として、浜田市内から入学者を募集するだけでは学生数の確保が難しくなっている他、島根県全体で見ても、看護学校の定員に対して受験者数は約9割、入学者数は約7割の水準にとどまっている。
- そのため、本校としては、より幅広い地域の学生へ魅力を発信していくことが必要と考え取り組んでいる。

取組の実施内容

- 幅広い地域の学生へ魅力を発信するために、本校では令和6年度からSNS（InstagramやTikTok）を用いた情報発信を実施している。とくにInstagramでは、2年間で800件以上(1日1件以上)の投稿を行っている。
- SNSでの発信内容は様々であるが、本校のブランドイメージを維持・向上させることを心掛けている。
- SNSを活用した情報発信においては、担当者の業務負荷等の理由から「開始したは良いものの、継続的な発信が難しい」という状況に陥りがちである。外部委託することも選択肢ではあるが、全てを外部委託するには大きなコストがかかるため、多くの養成所においては校内の担当者が実施することが現実的と考えられる。
- 本校においては、SNS活用の立ち上げ段階においては、ICT活用推進の主担当者が中心となり、情報発信を実施してきた。今後は人事異動等の可能性もあるため、どの教職員が担当となっても継続しやすい環境を整備するために、SNSを用いた情報発信業務に関するマニュアルの作成を進めているところである。

Instagramでの 投稿内容



出所:浜田医療センター附属看護学校からの画像提供

学生確保に向けた SNSでの魅力発信と効果測定

取組開始後の効果・成果

- SNSの閲覧数・フォロワー数は増加しており、また、保護者や地域の方々から反応をいただくこともある。
- 令和7年度入学者に対するアンケート調査では、本校のSNSの投稿を閲覧したことがある学生が8割以上であった。また、面接試験の際に、「Instagramを閲覧して本校の教員の学生への関わり方が非常に丁寧であることがよく分かった。それで本校を志望した。」といった意見も出ており、SNSを活用した情報発信について、既に一定の効果を実感している。
- SNSの質的な評価も必要と考えている。高校生等の入学候補者にどのような発信が求められているのかを明らかにして、より学生確保に有効な情報を全国に発信する仕組みづくりのため、取組を進めている。
- 本校のホームページの来訪者数等について、HTMLの中にGoogleのアナリティクスのコードを埋め込み、経時的に分析している。ホームページへのアクセス数を経時的に把握できる他、現在どのページが閲覧されているか、どの地域から閲覧されているか、等についても確認できる。
- ホームページへの来訪者データについては、SNSでの情報発信の効果測定や、高校生等の入学候補者にとってより魅力が伝わるホームページの作成につなげていきたいと考えている。

Instagramでの投稿内容



出所:浜田医療センター附属看護学校からの画像提供

オンライン入学試験

基本情報

学校名	四条畷看護専門学校	養成課程	看護師2年(全日制)
教員数	8名	学生数	1学年 40名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は「豊かな人間性を養い、専門職業人として広く社会に貢献できる看護師の育成」を理念とし、地域の保健医療福祉へ貢献できる主体性のある看護実践者を育成している。 		

背景・課題

- 全日制の2年課程は全国的にも少なく、遠方からの受験者が少なからず存在する。
- 新型コロナウイルス感染症流行時には、対面による従来の入学試験が忌避されやすい状況であり、接触による感染リスクを防ぐため、非接触型の試験が求められた。

取組の実施内容

- コロナ禍を契機にZoomによる入学試験を導入した。姉妹校からの受験者に対しては、対面での入学試験を実施していた。現在はAO入試、公募推薦入試、一般入試のすべてをオンラインで実施している。
- 各入試で導入しているZoomによる試験は、教員2名が複数の受験者を画面上で監督する形式である。受験者に対しては、事前にZoomの動作確認をすることで円滑に試験を実施できている。
- 小論文試験では、受験者本人がカメラの設定を行って執筆状況が分かるようにしている。試験終了後は直ちに小論文をメールで送付する。面接試験は、Zoomで受験者を順次呼び出す方式で実施している。
- 以前は郵送対応していた出願も、現在はオンラインで対応するようになった。

インターネット出願ページ



出所: 四条畷看護専門学校 インターネット出願ページ

取組開始後の効果・成果

- オンライン入学試験を実施していることが理由で本校を志望したという地方からの受験者の声も聞き、導入効果はあったと考えている。受験者数には影響していない。

オンライン説明会や面接授業を活用した 学生確保

基本情報

学校名	専門学校麻生看護大学校	養成課程	看護師2年(通信制)
教員数	10名(通信課程担当)	学生数	1学年 250名
<ul style="list-style-type: none"> 1918年(大正7年)に創立された専門学校麻生看護大学校は、九州を代表する看護師養成所である。看護師教育一筋で100余年教育に携わり、長い歴史と培われてきた伝統と信頼が今も脈々と継承されている。 			

背景・課題

- 看護師2年課程(通信制)の学生は九州全域(九州以外も一部含む)から入学しており、多様な地域に居住する学生に学びを提供する必要がある。

取組の実施内容

- 本校は、2005年の開学以来21年が経過し、これまでに4000名以上の卒業生を輩出している。学生確保にかかわる取組として、卒業生による紹介に加え、全国100か所以上の実習施設である医療機関・施設と連携し、本校の教育課程および教育上の特色について説明する機会を設けている。
- 学校説明会については、通常の対面開催に加えオンライン形式でも実施し、志願者が気軽に参加できるように工夫している。参加希望者が地理的・時間的制約を受けることなく参加できる体制を整備している。特に在職中の志願者に配慮し、参加機会の確保および利便性の向上を図っている。
- 学校説明会は教員も担当しており、会場において教育内容、学習方法等について具体的な説明を行っている。実際の教材の閲覧機会を設けるとともに、個別の質疑応答に対応することで、入学後の学習内容について理解を深める機会を確保している。さらに面接授業を公開し、教育活動の実際を見学できる取り組みも行っている。

学校説明会の様子



面接授業



出所：麻生看護大学校からの画像提供

取組開始後の効果・成果

- 実習施設への説明機会を設けることで、卒業生だけでなく実習施設からも入学希望者の紹介が得られている。
- オンライン説明会には毎回10名以上の方が参加しており、学生確保につながっている。

多様な入学者の受け入れ

基本情報

学校名	朝霞准看護学校	養成課程	准看護師
教員数	5名	学生数	1学年 30名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は1967年の開校以来、現在まで約1800名以上の准看護師を送り出している。 教育内容として看護者の「手」から伝える看護を意識した教育を行っている。 		

背景・課題

- 少子化や進学状況の変化等に伴い、准看護師養成所への入学者は全国的に減少傾向にある。
- 高齢化に伴う医療人材不足が深刻化する中、准看護師を育成し、地域へ人材を輩出していくことが本校の使命である。
- 入学者を確保するためには、これまでよりも幅広い対象者へアプローチしていくことが必要と考え、本校では多様な入学者の受け入れに向けて取り組むこととした。

取組の実施内容

- 多様な入学者の受け入れに向けて、近年の応募者数の推移や生徒の属性から現状分析を行った。加えて、取り組みの方向性について教員の意向を確認し、認識の統一を図った。
- 幅広い対象者への周知の取組として、地域のお祭りやイベント等に積極的に参加し、広報・宣伝に努めている。
- 介護施設への訪問説明や、日本に在住権のある外国籍の方への周知にも取り組んでいる。
- 学校説明会は、平日の日中だけでなく、平日の夜間や土曜日にも開催し、様々な状況の方が参加しやすいよう工夫している。
- また、入学後の対応として、外国人の生徒に対しては、可能な範囲で教科書に日本語のルビをふったり、英訳したりしてサポートしている。重要なオリエンテーションの際は、教員が外国人の生徒のそばについて、内容の理解を助けている。

取組開始後の効果・成果

- 多様な対象者への周知の取組を通じて、生徒定員は維持できている。
- 生徒からは「きめ細やかな指導で一つ一つじっくりと学んでいくことができる」との声が挙がっている。
- また、個々の生徒の状況・特性を考慮した就職先の検討を支援しており、就職を希望する生徒の就職率は100%となっている。地域から本校への信頼は大きく、総合病院や訪問看護ステーション等へ准看護師として就職するケースもある。

学生の状況に合わせた授業時間調整

基本情報

学校名	朝霞准看護学校	養成課程	准看護師
教員数	5名	学生数	1学年 30名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は1967年の開校以来、現在まで約1800名以上の准看護師を送り出している。 教育内容として看護者の「手」から伝える看護を意識した教育を行っている。 		

背景・課題

- 本校へ入学する生徒は社会人経験者が多く、年齢層は10代から60代と多岐にわたっている。また、令和7年度より男子生徒の受け入れを開始したところである。経歴や家庭環境等も生徒により様々である。
- 多様な入学者の受け入れが進んでいる反面、個々の生徒の状況に合わせた学習支援が必要となっている。

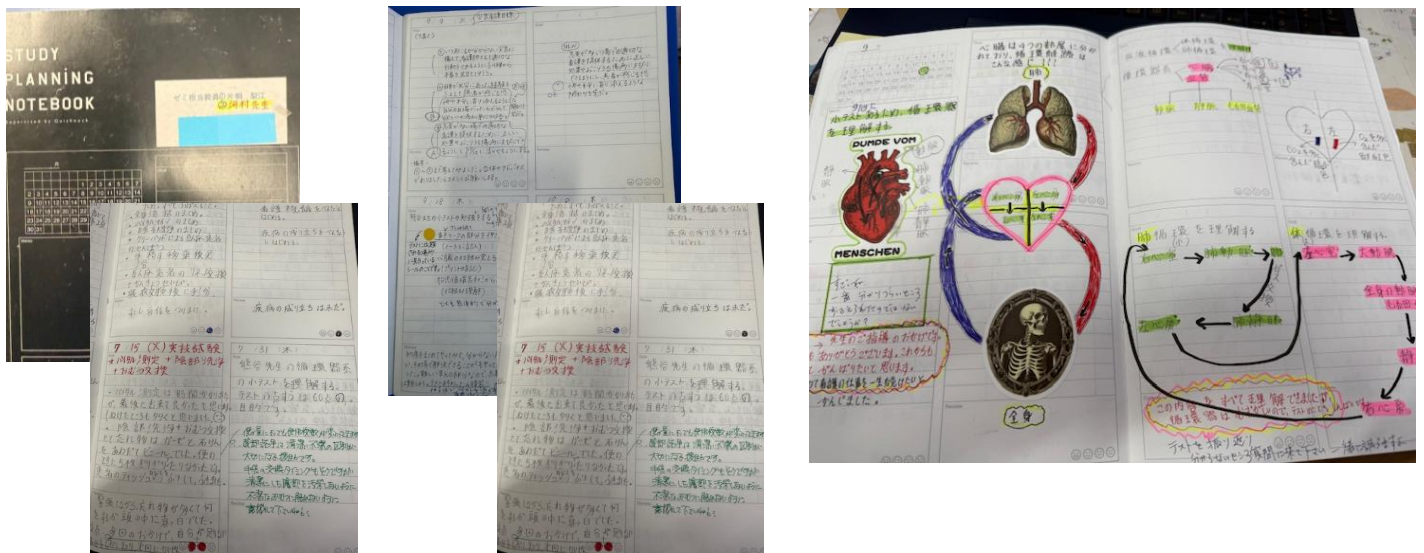
取組の実施内容

- 1年次よりゼミの時間を利用して自己学習や個別学習指導ができる制度を導入している。グループに分かれてそれぞれ担当教員が付き、苦手分野の学習や技術演習を共に行っている。
- 資格試験対策としては、2年生の12月から2か月間にわたって模擬試験を実施し、一定の基準に達しない生徒に対しては、学校で個別指導を行っている。必要時には教員が休日出勤をすることもある。教員負担を考慮し、時間外に勤務した分を休暇に充当できる制度を導入している他、有給休暇の取得を推進しており、有給休暇の取得率は100%を達成している。

取組開始後の効果・成果

- 学生からは「ゼミの時間によく勉強できた」という声が挙がっており、主体的に学ぶ姿勢にもつながっている。
- 資格試験対策(個別指導)を通じ、多様な入学者を一定の水準まで教育することにつながっている。

ゼミ担当教員と苦手分野の学習経過ノート



出所:朝霞准看護学校からの画像提供

入学候補者のニーズを捉えた情報発信

基本情報

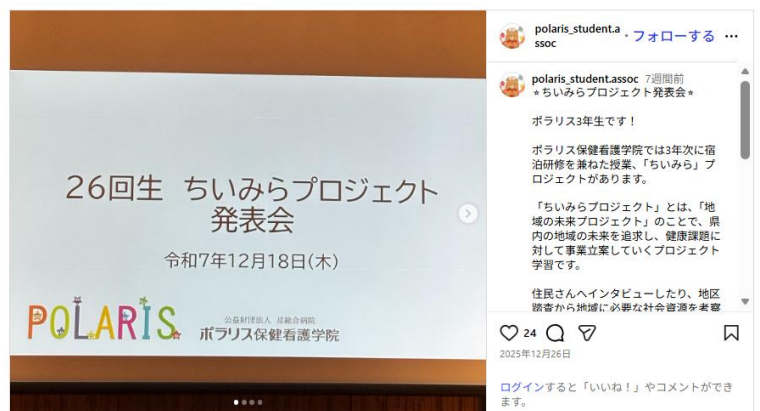
学校名	ポラリス保健看護学院	養成課程	統合カリキュラム(保健師・看護師)
教員数	17名(専任16名、兼任1名)	学生数	1学年 40名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 昭和52年(1977年)に財団法人星総合病院附属高等看護学院開設。以来、「荒海孤舟北極星」を建学の理念として、地域住民の健康や人生の「現在」ばかりでなく、「過去」と「未来」をつなぐ健康づくりと地域づくりに深く関与する看護職を育成している。 1998年度から保健師・看護師統合カリキュラムを導入している。以降、長年にわたり多数の卒業生を輩出しており、卒業生の8人に1人は保健師として就業している。 		

背景・課題

- 統合カリキュラム(保健師・看護師)を有する養成所は全国的にも珍しい。
- 以前は文字情報をベースとした広報活動を展開していたが、数年前に母体病院で「映像クリエイト部」という部門が立ち上がり、SNS等への写真や映像の投稿を通じて魅力を発信していく取り組みが開始した。
- 本校においても、統合カリキュラム(保健師・看護師)の認知度向上や魅力発信に向けて動き出すこととなった。

取組の実施内容

- 母体病院の映像クリエイト部や広報部の協力を得て、本校では2年前よりInstagram等のSNSでの発信に取り組むようになった。幅広い学生へ本校の魅力が十分に伝わるような周知方法を検討した結果、写真や映像を積極的に活用する方針となった。
- 教員の平均年齢が比較的良かったこともあり、動画を用いた情報発信を円滑に導入できた。



出所:ポラリス保健看護学院SNS

取組開始後の効果・成果

- SNSの活用は県内でも先駆的であり、本校に関心を持つ高校生などから好評である。
- 導入当初は教員のみがSNSの発信を行っていたが、現在は学生による情報発信も実施している。学生の視点を取り入れることで、入学候補者のニーズを捉えた情報発信につながっている。

教員の働き方改革と研修機会確保の両立

基本情報

学校名	愛仁会看護助産専門学校	養成課程	助産師
教員数	常勤4名、非常勤2名(実習担当)	学生数	1学年 15名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 1958年設立の社会医療法人愛仁会は、大阪から兵庫で地域医療・介護を展開し、看護師・助産師2,600名以上を育成してきた。 		

背景・課題

- 助産師課程は分娩介助に伴い臨地実習のスケジュールが不規則となるため、教員の勤務時間の調整が困難となるケースが多い。
- 一方で、医学・助産学・看護学等の知識・技術は日々進歩しており、教員の継続的な自己研鑽は重要である。
- 本校では、学生への指導に注力できるよう、教員の勤務環境整備や働き方改革に取り組むことに加え、教員の能力向上を目的とした研修機会確保の両立に取り組んでいる。

取組の実施内容

- 教員の負担軽減に向けた取り組みとして、就業時間の調整や早出・遅出勤務の導入を行っている。常勤の教員においても、子育て支援のため週4日勤務を導入しているケースもある。
- 本校全体では、助産学科と看護学科をあわせて教務事務職が3名在籍している。出席管理や成績入力、再試験願の届け出等、教務事務へのタスクシフトを推進し、教員が自身の業務に専念できる環境づくりに取り組んでいる。
- その上で、本校では教員の研修として、年2回の学会参加を必須としている。年2回の学会参加や近隣の研修に係る費用は、公費として本校が負担し、出張として時間確保をしている。
- 参加する学会や研修は教員自ら選択可能であり、参加後は教員同士で学会参加報告・情報共有を行っている。

取組開始後の効果・成果

- 本校助産学科に在籍する全ての教員が、CLoCMiP(助産実践能力習熟段階)の認証を受けた「アドバンス助産師」であり、全員レベルIVを保有している。教員がラダーを更新・維持できるよう養成所で支援している。

業務効率化と風土醸成を通じた 教員の働き方改革

基本情報

学校名	浜田医療センター附属看護学校	養成課程	看護師3年(修業年限3年)
教員数	11名(教務助手含)	学生数	1学年 40名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和28年の開設以来、当地から島根県のみならず全国の医療機関に多くの卒業生を輩出してきた伝統ある看護学校である。隣接する浜田医療センターは、高度急性期医療を担う島根県西部の中核病院であり、多くの卒業生が勤務している。 		

背景・課題

- 令和4年度より適用されている新カリキュラムにおいてICT活用が打ち出されたことにより、業務効率化に向けた意識が一層高まっている。
- 本校では、教職員が一丸となって「学習する集団」となることを目標に、教職員全体で看護教育DXを推進し、効率的に質の高い教育を提供できるように取り組んでいる。
- また、教職員全体で「生活と仕事の質の向上」を図ることについても共有しており、情報共有システムを活用した教員の業務効率化や、働き方改革に向けた風土醸成に取り組んでいる。

取組の実施内容

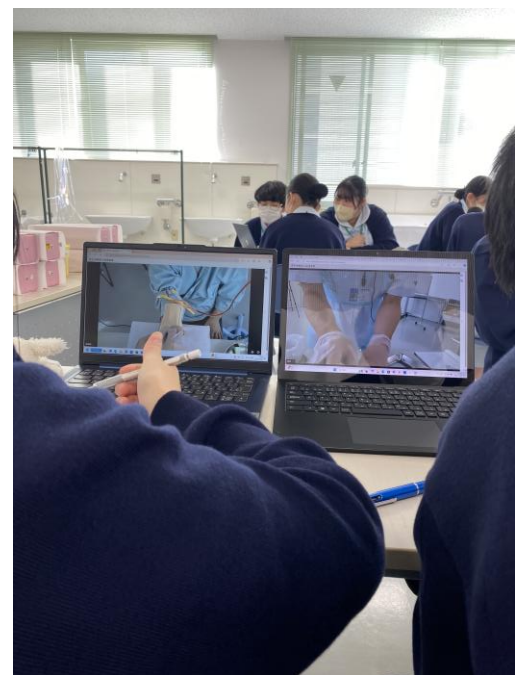
- 学内(院内)LANを活用し、オンラインでの情報共有を活発に行っている。また、業務の指示などもクラウドサービスやメールを用いて効率化している。一方で、すれ違いが起らないよう、必要な場合には対面での打ち合わせも併用する等、バランスを見ながら効率化を進めている。
- 教員会議は週1回開催しているが、経営に関すること、とくに働き方改革に関することは毎回取り上げるようにしている。例えば、働き方改革のために簡素化や省略化できる部分の検討や、非常勤事務職の雇用とタスクシフト等について教員全体で協議し、計画的に実行している。
- 本校では「話しやすい職場風土」を心掛けており、教員会議では、有給休暇の取得状況(とくに有給休暇を取得できていない教員)を共有し、休暇を取得しやすい体制づくりに努めている。
- 教員会議の議事録の作成には一部生成AIを活用し、業務効率化に努めている。その他、授業で用いる教材の作成にもスマートグラス¹⁾やLMS(Learning Management System:学習管理システム)を活用している。
- ICTの導入段階においては、牽引するキーパーソンの力が必要であり、本校でも教育主事とその役割を果たしてきた。一方で、ICTの導入後は、組織全員が関わって作り上げていくことが必要になる。
- 組織全体で看護教育DXを推進するために、運用を属人化せず、仕組みやマニュアルを簡素化し、誰でも利用できるように工夫している。ICTの活用は「皆で作っている」という感覚を共有することができれば、自然と進んでいくものであり、取り残される教員や学生が発生しないように配慮している。

1)スマートグラス:講師が着用することで看護師視点または患者視点をインタラクティブボードや学生個々のPCに投影できて学べるツール

業務効率化と風土醸成を通じた 教員の働き方改革

取組開始後の効果・成果

- 教職員間の情報共有をオンラインで活発に行うことにより、情報共有の時間を省略でき、会議時間の削減につながっている。オンラインにデータが残るため、後から振り返ることも可能である。
- 本校の教員の有給休暇取得日数は、個人差があるものの、平均で年間20日取得している。休暇の取得を推進することで、教員自身がどのように業務を効率化していくか考えることにもつながっている。
- 教員の業務が効率化されたことにより、学生に直接関わる時間が増えている。
- 看護教育DXの研修のために本校を訪れる他校の教員も増えており、これまで計14施設を受け入れた。来訪者への説明を通じて、教員の自信にもつながっている。



出所：浜田医療センター附属看護学校からの画像提供

教員が実施している様子を複数のカメラで撮影。遠くからでも細かい手の動きまで見ることができる他、授業が終わった後に録画データを活用して振り返り学習をすることができる。

教職員の働き方改革

基本情報

学校名	厚木看護専門学校	養成課程	看護師3年(修業年限3年)
教員数	21名	学生数	1学年 80名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和43年設立で、神奈川県総合リハビリテーション事業団の基本理念に基づき、看護師を育成している。 		

背景・課題

- 看護教育を支える教職員が仕事にやりがいを感じ、希望をもって働ける職場であることが、看護教育を支える土台であると考えている。また、家庭と仕事のバランスにおいて満足度を高めることが長く働き続けられる鍵を握る。
- ICTによる業務の効率化は、教員が専門的な職務に専念できる環境をつくるだけでなく、働く人材の減少にも対応しうるものである。養成所におけるDXの推進は、教育の質向上と教員の労働環境改善を同時に実現するための基盤と言える。
- 質の高い教育を目指すうえで、教員のリスクリングや省察の時間を確保することが重要である。ゆとりと余裕が必要であり、余白のある働き方が学びと新たな挑戦や創造につながる。

取組の実施内容

- 休暇は、必要な時に自由に取得でき、年3回(ゴールデンウィーク・夏季・冬季)は計画的な長期休暇を設けている。特に夏季は休校期間を設け20日間程度の長期休暇をとる。教職員が安心して十分な休息をとれるようにしている。
- 週2日のノー残業デーは定刻退勤を徹底している。その他の日についても時間外勤務が月に5時間以内となるよう業務調整を行い、無理のない働き方を推進している。
- 令和7年度からテレワークを導入し、柔軟に働ける体制を整えた。子育てや介護など家庭の事情を抱える教職員は積極的に活用している。リフレッシュと仕事を両立できる「ワーケーション」も許可している。
- リスクリングや研究・研修は業務時間内に行うことを基本とし、学びが負担にならないよう勤務の調整を行っている。例として、月1回の研究活動時間の設定や、研修の出張扱い・代休付与、実習指導におけるパートナー制と帰校のローテーションにより、教員の勤務負担の平準化を図っている。

教職員のエンゲージメント強化



休暇は惜しみなく
必要な時、自由に休む
年3回の長期休暇



毎日がノー残業デー
全員で定時で帰る段取り



テレワークの導入
場所に拘束されない
働き方の実現



研鑽は業務時間内で
学びへの支援体制
研修希望を100%許可



仕事を手放す
DXの推進
コスト感覚を身につける



案を追求する
AIの活用
働き方の価値観を転換する

出所:厚木看護専門学校からの提供資料

取組開始後の効果・成果

- 働き方改革により時間が捻出できたことで、教員は疲弊することなく業務改善の取組を意欲的に推進できている。

教員によるDX推進

基本情報

学校名	厚木看護専門学校	養成課程	看護師3年(修業年限3年)
教員数	21名	学生数	1学年 80名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和43年設立で、神奈川県総合リハビリテーション事業団の基本理念に基づき、看護師を育成している。 		

背景・課題

- 本校は医療DXに対応できる人材育成を重視している。医療界はDXの遅れが指摘され、初等教育ではICT教育が進む中、高等教育がその水準を下回することは教育水準の低下につながる。
- パッケージシステムは本校の目指すICT教育に合わず、独自のシステムを整備してきたが、今後はシステムを改良できる人材が必要と判断した。
- これらの取組が評価され、令和6年度、厚生労働省「看護現場におけるデジタルトランスフォーメーション促進事業」にモデル校として採択された。

取組の実施内容

- 令和2年度からのDXをさらに発展させるため、令和7年度にDXプロジェクトを立ち上げた。既存のパッケージシステムでは教育現場のニーズに柔軟に対応できない。学校独自の課題を解決するオリジナルなシステム構築へ方針転換し、教員のプログラマー育成を目的にDXコンサルティングを先行投資として導入した。
- まずはDXコンサルタントと情報共有し、本校が求めるシステムの具体案を伝え、コンサルタントと一緒にシステムを構築した。その後、教員のみで培った知見を基に、他事例に展開した。
- 課題発生時には、都度コンサルタントに相談し助言を得ている。得られた知見は勉強会を通じて全教員に共有し、全員で同一の課題に取り組むことで、組織全体の理解と習熟度の向上を図っている。



出所：厚木看護専門学校からの提供資料

取組開始後の効果・成果

- 自動化により、人が担う必要のない業務を手放し、時間と空間のゆとりが生まれ働き方改革が進んだ。経費削減、情報共有の迅速化、危機管理や業務遂行のスピード向上にもつながっている。

教員ラダーの活用

基本情報

学校名	奈良看護大学校	養成課程	看護師3年(修業年限4年)
教員数	13名	学生数	1学年 60名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は平成26年の奈良県立病院機構の設立に伴い開校し、令和4年のカリキュラム改正を機に4年制に変更した。 		

背景・課題

- 奈良県立病院機構は機構内に3病院を有しており、機構職員でもある教員は臨床現場と教育現場をシームレスに異動している。そのため、教員の実践能力が維持されている。
- 一方で教員として新任でも、チーム運営、自己研鑽、マインド面では経験が豊富な場合が多く、臨床現場のマネジメント経験を教員キャリアに活かすことが期待されていた。しかし、以前のラダーでは、臨床現場のマネジメント経験者において評価をつけにくい部分があった。

取組の実施内容

- 当初は日本看護学校協議会のガイドラインを教員ラダーとして運用していたが、項目は授業、チーム運営、自己研鑽、マインドの4点、レベルも1~4と簡潔な内容に改訂した。
- 教員ラダーにおける授業項目は学生への教授能力をみる項目、チーム運営はチーム運営能力やファシリテーション能力をみる項目、自己研鑽はキャリア形成、自己研鑽、研究活動を評価する項目、マインドは理念、ディプロマポリシーを理解し、看護の実践者育成を担う教員のマインドをみる項目である。
- 教員ラダーは、評価者の意見を反映して適時改訂している。より評価しやすくするためのブラッシュアップが大切である。
- ラダーでは評価が難しい新任教員の授業評価のため、独自で作成した新任期授業力量評価表を別途使用している。

取組開始後の効果・成果

- 年2回、自己評価をチェックした教員ラダーを面談の際に提出し、人事考課、目標管理に活用できている。
- 新任期授業力量評価表は、授業の独り立ちの判断に活用できている。

教員ラダーの活用

取組の実施内容

教員ラダーの図

ラダーレベル			レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	評価指標 (行動評価)	期中自己 日付	期中他者 (管理者) 日付	期末自己 日付	期末他者 (管理者) 日付	自由記載
経験年数の目安			新任期	2～5年	6～10年	11年以上		サイン	サイン	サイン	サイン	
1	授業	講義や実習 の実践	【レベル1 新任期】 授業力量 評価表 参照	他科目との関連付けやディプロ マポリシー、成長過程をイメージ した授業ができる		A-①⑦⑨、B-①①④⑬⑯⑰⑱ 授業参観シートの自己評価・他者評価 ディプロマポリシー、奈良看護の理解度 目標管理シートの達成度(75%以上) 学生の学力・コンピテンシー評価 (75%以上)						
				PDCAサイクルを回しながら対象となる学生に合 わせた授業運営ができる		A-①⑦⑧、B-①④⑬⑯⑰ ・授業参観シート、リフレクションシート、 実習の中間評価を活用した学生支援度						
				シラバスと授業案の作成ができる		A-①②③⑤⑥、B-①③⑪ 授業内容と整合性、妥当性があるシラバ スの作成度(1人で作成でき、達成10 0%)						
2	チーム 運営	クラス運営 委員会運営 学生会	クラスのチーム力を学校運営や 地域への貢献に発揮できるよう 支援できる		地域への活動の程度 地域や他部門への交渉 学校内外の運営への活動の程度							
			学生の自律支援、クラスのチーム力を高めるファ シリテーションができる		学生の言動確認 PDCAサイクルの回転度 コミュニケーション・ファシリテーションス キル							
			学生との対話・面談が実施でき学生の状況を適切に判断しその 記録(学生カルテ・コンピテンシー)ができる		学生カルテの記録状況(三側面) 学生の満足度調査 学生個々に応じた対話やサポート支援、 フィードバック							
学生とコミュニケーションをはかることができ、教育に必要な情報を学年教 員と共有することができる			学生カルテの記録状況(三側面) 学生の満足度調査 学年教員ラダー面談									
3	自己研鑽	キャリア形成 自己研鑽 研究活動	自身のキャリアを組織や社会に 貢献できる		活動内容の学会発表 地域での活動による社会貢献度							
			自身のキャリアUPについてPDCAを回すことが できる		目標管理シートでのキャリア形成や自己 研鑽に関する計画達成度 教職員会での実践報告							
			ラダー意識したキャリアUPを図ることができる		目標管理シートでのキャリア形成や自己 研鑽に関する計画作成度							
			学校のしくみ(運営・学則・カリキュラム等)を理解できる 自身の力量を理解し、今後の課題と行動計画を明らかにすることができる		目標管理シートでの自身の力量理解度 面談時での今後の課題と行動計画の提 示度							
4	マインド	機構理念や 奈良看護の 理解	他組織と協働し、県民の健康を 守るという社会的責任と自覚を もつことができる		管理者としての言動、学生、スタッフ、保 護者、他関係者との関わり、外部との調 整							
			他者と協働し、自校の教育の質を高めるという責 任と自覚をもつことができる		日常の言動、学生との関わり 会議、委員会での発言、行動 学内外行事への参加							
			機構と学校の理念、学校の教育目標、ディプロマポリシーが理解できる。 教員として看護職を育成するという社会的責任と自覚をもつことができる		C-③ 理念、目標、ディプロマポリシーの理解、 日常の言動、学生との関わり、会議等 での発言							

【運用方法】自己評価(9月・2月)→他者評価(管理者面談 期中・期末) 【保存場所】Qフォルダ→28. 看護教員ラダー

奈良看護大学

出所:奈良看護大学からの提供資料

教員ラダーの活用

取組の実施内容

新任期授業力量評価表

レベル1 新任期授業力量評価表		確認日	年	月	日	
科目〔 〕 講師〔 〕 評価者〔 〕		3年目以上の教員				
<p>* 新任期とは、教員養成講習会を終えた翌年に授業を開始する時期とする。（授業実践者1年目）</p> <p>* 新任教員はこのチェックシートを用いて授業の力量チェックを受け、合格した後に独り立ちでき、「教員ラダーのレベル2」へ移行できる。</p> <p>* チェック項目はA・B 2項目ある。</p> <p>* 独り立ち要件：A項目すべてに○かつB項目が19点以上（1～5は3点以上、6～7は2点以上）</p>						
A 以下の4項目に1つでも×がある場合は 再評価 とする できている項目に○、できていない項目に×をつける						
1	絶対評価項目	シラバスの「科目のねらい・目標」「単元の内容」と授業内容に齟齬がない。				
2		授業時間を守っている。				
3		学生との相互交流がある。（対話・発問など）				
4		本時の目標（ゴール）設定が示されている。				
B 合計点が 19点/28点 以上あれば合格とする。 4：強くそう思う、3：そう思う、2：そうは思わない、1：全くそう思わない						
		項目	自己評価	評価		
1	準備	授業の構成や方法はわかりやすかったか				
2	実施	教員の話し方は明瞭で聞きやすかったか				
3		テキストや資料（スライド・動画など）の使用は適切であったか				
4		教員は学生の質問や発言を促し、適切に対応していたか				
5		教員は学生の理解の程度を把握して授業をすすめていたか				
6	発展	学生の知的好奇心や興味を刺激する内容であった				
7		他の科目との関連性、つながり、発展などを説明できていたか				
感想・総合的に良かった点、改善した方がよい点など自由に記入ください。						
【運用方法】 適時(授業毎)自己評価→評価者評価→適時状況の確認とフォロー 【保存場所】 Qフォルダー→28.看護教員ラダー						

卒業生ネットワークを活用した教員確保等

基本情報

学校名	朝霞准看護学校	養成課程	准看護師
教員数	5名	学生数	1学年 30名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は1967年の開校以来、現在まで約1800名以上の准看護師を送り出している。 教育内容として看護者の「手」から伝える看護を意識した教育を行っている。 		

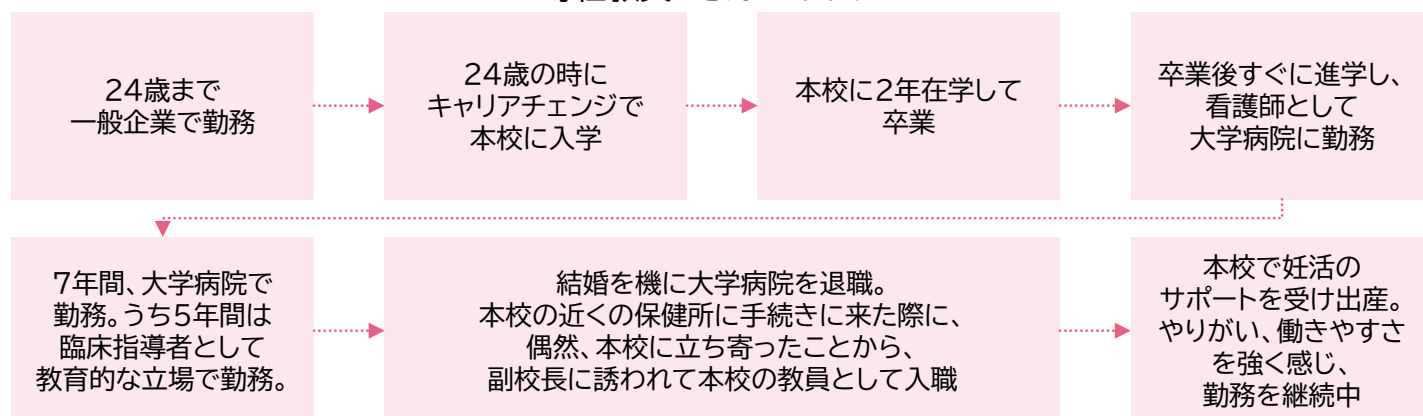
背景・課題

- 准看護学校では、全国的に教員不足や教員の高齢化が課題となっている。准看護師教育に関心を持つ教員が集まりにくい実情もあり、本校では、卒業生ネットワークを活用し、教員確保に取り組んでいる。

取組の実施内容

- 本校は卒業生との関係を大切にしている。卒業後に本校を訪ねてくれる卒業生が多く、恩師とのつながりから教員をこころざし、採用につながるケースもある。現教務主任と専任教員1名が本校の卒業生である。
- 教員確保に向けて、労働環境の改善にも取り組んでいる。小規模な学校であるため、フレックス制度の導入は難しいが、時間外で勤務した分を休暇に充当できる制度を導入している。また、在宅勤務で対応できる場合には在宅勤務を承諾しており、柔軟な働き方に対応している。
- その他、教員が取り入れてみたい教育などは積極的に導入するようにしている。教育の質の向上のために、外部の研修や学会に教員を積極的に派遣して、教育の幅を拡大するように配慮している。研修旅費は全て本校が負担している。

専任教員Tさんのキャリア



取組開始後の効果・成果

- 労働環境改善により、教員の離職率が低くなっている。教員が離職せずに勤務し続けることは、卒業生にとっても学校とのつながりや人脈が継続するという効果がある。また、卒業生が自分の子どもを入学させる等、副次的な効果として、入学者の確保にもつながっている。

地域の健康課題を考える実習

基本情報

学校名	旭川高等看護学院	養成課程	保健師
教員数	4名	学生数	1学年 30名（地域看護学科）
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和48年に看護師課程を開学し、その後昭和62年に保健師課程を開設し40年弱の歴史がある。 北海道立の高等看護学院は3校あり、他校は看護師養成の看護学科のみの設置で、本校は北海道で唯一の道立保健師養成所である。 		

背景・課題

- 多職種と連携しながら地域の健康課題を解決していくことは、保健師の専門性のひとつである。
- 自ら声をあげられない状況にある人々の潜在的ニーズを把握し、その人らしく地域で生活できるよう、保健師として支援体制の構築や関係機関との協働・連携を推進していくための学びを深めることが重要と考えている
- 本校では、とくに障害者支援に関する経験を通じて、共生社会の実現に向けた活動を学べるよう、カリキュラムを工夫している。

取組の実施内容

- 本校開設当初から、精神障害者を対象とした実習をしており、現在は10月から11月にかけて公衆衛生看護管理論実習を実施している。本実習では、精神障害者の支援を通して把握した個別の健康課題から、地域の健康課題を考えるとともに、精神障害者が生活する地域における健康課題の解決に必要な社会資源について理解を深めることを目的としている。
- 実習前には地域アセスメント、家庭訪問計画および関係者へのインタビュー計画の作成、施設情報の把握を行い、実習後には得られた情報を統合・分析することで、地域の健康課題を俯瞰し、多面的に分析できる力を養っている。
- 学生それぞれが体験した家庭訪問や施設見学、関係者へのインタビューを報告会で共有し、複数の事例の学びが得られるように工夫し、その後の演習につなげている。
- 重層的なネットワークによるサポート体制、行政を含めた地域全体の支援、インフォーマルな支援やコミュニティの重要性等を学び、共生社会のあり方を考える機会となっている。また、学生は、精神障害者が病院での生活とは違い、地域で生活している姿を実際に見ることで、その人をエンパワメントする支援について理解を深めている。

地域の健康課題を考える実習

取組の実施内容

公衆衛生看護管理論実習について

<実習の位置づけ・ねらい>

- 本実習では、精神障害者と家族の支援を通して個別の健康課題とその背景を知り、健康課題の解決・改善に向け関係職種・機関の専門性を理解し、精神障害者の生活を支えるための支援を学ぶ実習である。
- また、個別の健康課題から地域の健康課題を探り、精神障害者が生活する地域の健康課題を解決するための社会資源を理解するための実習である。
- さらに、実習後に行う「地域ケアシステム構築演習」では、この実習での学びを深め、精神障害者と家族を支える地域ケアシステムを考え、地域の健康課題の解決・改善に必要な社会資源の活用やシステムの構築を行う能力を養う。

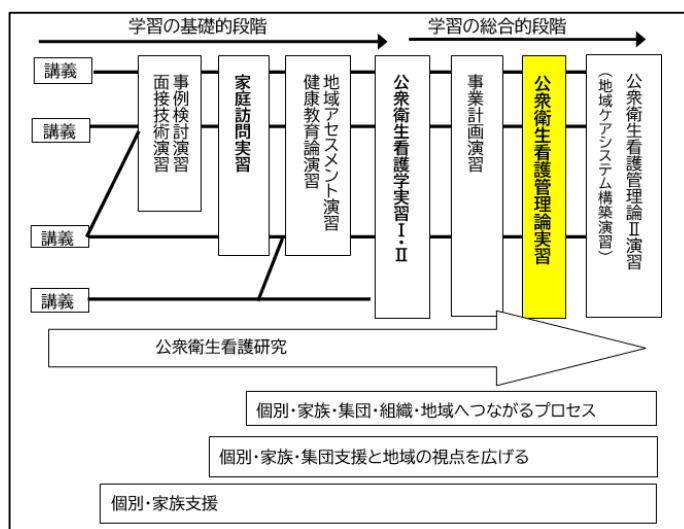
<目的>

- 在宅精神障害者と家族の生活支援を通して、障害を持つ対象の健康課題と地域での生活の実際について学ぶ
- また、個別の健康課題から、精神障害者と家族を支える地域ケアシステムの必要性を考える。

<実習方法>

- (1)精神障害者宅に家庭訪問を行う。
- (2)社会福祉協議会とデイケア、就労支援事業所(または地域活動支援センター)の3か所で、精神障害者と関わり、関係者へのインタビューを行う。
- (3)家庭訪問終了後に、病院関係者(主治医や実習指導者)に出席いただき報告会を開催する。
- (4)地域ケアシステム構築演習で実施する地域アセスメントをふまえて、実習を行う。

教育課程における公衆衛生看護管理論実習の位置づけ



出所:旭川高等看護学院地域看護学科 公衆衛生看護管理論実習要領(抜粋)

取組開始後の効果・成果

- 個別支援を通して把握した課題を地域課題と関連づけて考え、最終的には課題解決を推進していくケアシステムの必要性を考えることができている。

学生の主体的な学習を支える 「サポートアワー」

基本情報

学校名	愛仁会看護助産専門学校	養成課程	助産師
教員数	常勤4名、非常勤2名(実習担当)	学生数	1学年 15名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 1958年設立の社会医療法人愛仁会は、大阪から兵庫で地域医療・介護を展開し、看護師・助産師2,600名以上を育成してきた。 		

背景・課題

- 多様な入学者を確保するため、本校では一般入学試験だけでなく、推薦入学試験(公募制)を設けている。
- 推薦入学試験(公募制)での入学者は比較的若年層が多く、医療機関での勤務経験がない学生も多い。医療機関での勤務経験がない学生においては、入学時の基礎的な看護実践能力が不足しているケースも存在する。
- そのような中でも、実践力のある助産師人材を輩出し、地域医療に貢献していくことが本校の使命である。
- 多様な入学者を育成し、実践能力を確実に習得できるようにするためにも、学生の主体的な学習を後押しすることが重要である。

取組の実施内容

- 入学時の経験値や実践能力に個人差がある中で、学生のテクニカル・スキルの習得を支援するために、本校では「サポートアワー」を設定している。
- 「サポートアワー」とは、毎日の昼休みや放課後の時間帯(17~19時)に、学生が自ら希望する指導内容を予約し、担当教員が個別に実技等の指導を行う取り組みである。
- 「サポートアワー」の予約にはMicrosoft社のTeams for Educationを活用し、スケジュールを一元管理している。学年のチームを作成し、共有フォルダ内へ予約管理用のExcelファイルを格納した上で、各学生が指導してほしい時間を前日までに入力するというルールで運用している。

取組開始後の効果・成果

- 「サポートアワー」を活用する学生は非常に多く、学生の主体的な学びを環境面で後押しできている。



養成所と臨床における人材交流

基本情報

学校名	愛仁会看護助産専門学校	養成課程	助産師
教員数	常勤4名、非常勤2名(助産学科)	学生数	1学年 15名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 1958年設立の社会医療法人愛仁会は、大阪から兵庫で地域医療・介護を展開し、看護・助産師1,800名以上を育成してきた。 		

背景・課題

- 本校は、法人内に複数の医療機関や介護施設を有しており、助産学科では、法人に魅力を感じて入学する学生も多い。
- 出生率低下に伴い、全国的に助産学実習での経験機会が減少する中、本校は法人内の医療機関と連携し、実習機会の確保に努めている。
- 貴重な臨地実習の効果を最大化するためにも、事前の演習を強化することや、実習先との事前の情報共有が重要と考えている。

取組の実施内容

- 法人内の医療機関に勤務する助産師のうち、とくに助産師教育に関心のある者へ「臨床教員」という役割を依頼している。「臨床教員」の主な役割は、臨地実習での指導だけでなく、養成所内での演習にも参加している。
- 愛仁会グループの総合周産期母子医療センター、地域周産期母子医療センターでの実習を行っている。系列の3病院では豊富な分娩数があり、院内助産センターが活発な活動を行っている。NICU,GCU,MFICU,障害児病棟での実習では、ハイリスクの学習も可能となっている。
- 法人内の病院では、実習指導の研修を終えた担当者が多数勤務しており、また実習指導者の多くが本校の卒業生である。加えて、地域住民を対象とした子育て講座を開催するなど、丁寧な実習指導を行っている。

取組開始後の効果・成果

- 臨地実習前に学内演習を実施し、学生の到達状況を事前に把握することで、実習の課題や目標を共有し、円滑かつ効果的な臨地実習の実施につながっている。
- 本校卒業後に法人内の医療機関へ就職する学生が多いこともあり、養成所における教育から入職後の研修への円滑な接続にもつながっている。
- 医療機関で臨床教員を担っていた者が本校教員として着任する事例もあり、人事交流を通じた教育体制の充実・強化にも寄与している。

院内アルバイトやボランティアを通じた コミュニケーション実践機会の提供

基本情報

学校名	浜田医療センター附属看護学校	養成課程	看護師3年(修業年限3年)
教員数	11名(教務助手含)	学生数	1学年 40名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和28年の開設以来、当地から島根県のみならず全国の医療機関に多くの卒業生を輩出してきた伝統ある看護学校である。隣接する浜田医療センターは、高度急性期医療を担う島根県西部の中核病院であり、多くの卒業生が勤務している。 		

背景・課題

- 全国的に核家族化が進んできており、日常生活において世代間交流の機会は減少している。看護師等養成所の学生にとって、同世代との交流機会はあっても、高齢者を含む対象者等との交流経験は貴重である。
- また、令和4年度より適用されている新カリキュラムにおいて、コミュニケーション能力の向上が掲げられたところである。コミュニケーションは講義を受けただけではすぐにはできるものではなく、経験することで初めて実践力として身につくものである。
- 本校では、コミュニケーション実践機会の提供を一つの目的として、同法人の浜田医療センターでの院内アルバイトやボランティア活動を学生に紹介している。

取組の実施内容

- 本校では、学生へのコミュニケーション実践機会の提供が重要と考えており、令和5年度より、浜田医療センターでの院内アルバイトを制度化している。
- 院内アルバイトとは、平日の夕方や土日などに、浜田医療センターで看護助手としてアルバイト勤務する取り組みである。全員が参加するものではなく、一部の希望した学生が参加する形である。浜田医療センターの看護職員も、アルバイトの看護学生を「自分たちの仲間」として受け入れてくれる風土があり、適切なリスク管理のもと、実践しながら業務を学ぶことができている。
- ボランティアについては、地域住民と一緒に本校に隣接する駅の花壇整備や地域行事への参加などを行うケースがある。

院内アルバイトやボランティアを通じた コミュニケーション実践機会の提供

取組開始後の効果・成果

- 院内アルバイトは、全員が参加するものではなく、一部の希望した学生が参加する形であるが、教育効果は非常に高いと感じている。浜田医療センターの看護職員のサポートも手厚く、学生の満足度も高い。
- ボランティアについても、地域住民との関わりを通じてコミュニケーション能力の向上につながっている。
- 院内アルバイトやボランティア等の取組を積み重ねることによって、学生の倫理観の醸成やコミュニケーション能力の向上につながっている。
- 年度末に実施している学生によるカリキュラム評価においても、(院内アルバイトとボランティアだけを評価したものではないが、)満足割合は9割以上と高い満足度につながっている。



ボランティア(病棟清掃活動)



ボランティア(除草作業)



ボランティア(難病フォーラムでの血圧測定)



地域住民との交流

ICTの教育現場での利活用

基本情報

学校名	厚木看護専門学校	養成課程	看護師3年(修業年限3年)
教員数	21名	学生数	1学年 80名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和43年設立で、神奈川県総合リハビリテーション事業団の基本理念に基づき、看護師を育成している。 		

背景・課題

- 教育現場には膨大なデータが存在するが、紙や分散したツールでは分析や利活用が進んでおらず可視化が十分にできていない。教育の質向上の大きなボトルネックとなっている。
- 対面接触に依存した教育は災害、感染症、酷暑時などに脆弱である。どこでも安全に学べるオンライン環境、没入感のある教材、繰り返し学べるコンテンツの整備が求められている。
- ICTの進展により学びの場所や方法は多様化しているが、「勉強は学校でするもの」という古い価値観が残存しており、学びの利便性・能動性を高めるICT活用が十分に進んでいない。

取組の実施内容

- 学生一人一台のiPadと校内Wi-Fi、e-learning教材や学習動画の活用により、時間や場所にとらわれず繰り返し学べる環境が整備された。災害時や酷暑時でも「学びを止めない」体制が確立している。
- 学習記録・実習記録・試験のデジタル化により、進捗や理解度をデータとして蓄積・分析できるようになった。WEB試験の導入で迅速なフィードバックが可能となり、学生の自律的な学習を後押ししている。
- シミュレーションルームでは臨床状況を再現した学習ができ、イノベーションルームでは学生目線で撮影された映像教材を大画面で視聴できる。

取組開始後の効果・成果

- 臨床を事前に理解したうえで実習に臨めるため、実践力の向上につながっている。
- ICTを活用した映像教材やオンライン環境により、臨床の現場と学校教育がより密接につながり、学びの連続性が高まっている。実習前から現場を具体的にイメージできるため、理論と実践の橋渡しが強化されている。

ICTの教育現場での利活用

ICTの教育現場における利活用



どこでも学べる

自宅で カフェで
帰省先で



教育データの可視化

データの蓄積・分析で
質を評価する



臨床を再現した学び

リアルで没入感の
ある教材

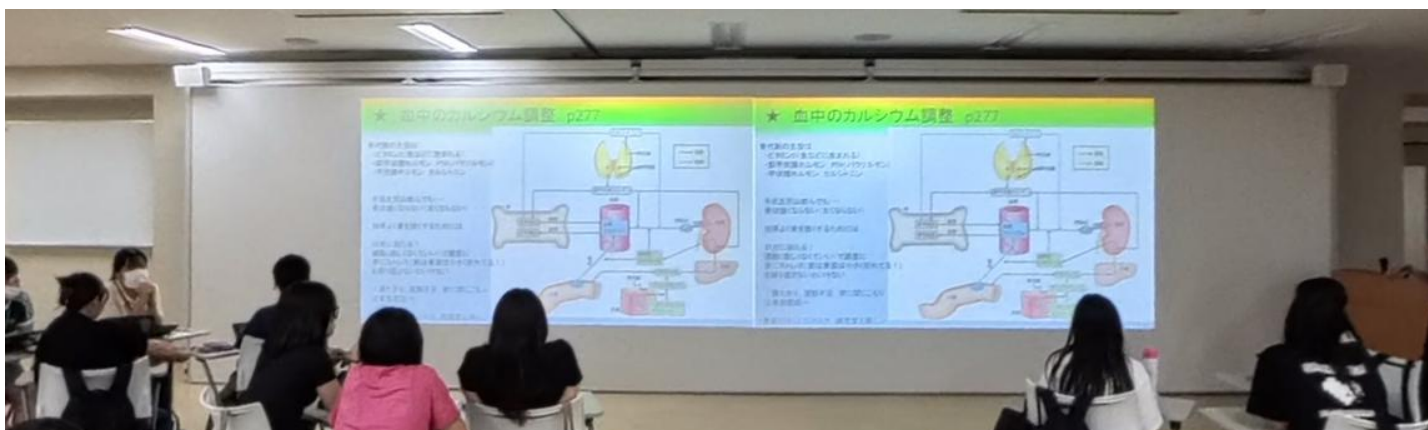


臨床との連携強化

映像と遠隔で
臨床とつながる

出所:厚木看護専門学校からの提供資料

イノベーションルームで大画面を活用した映像学習



出所:厚木看護専門学校からの画像提供

チューター制度

基本情報

学校名	砂川市立病院附属看護専門学校	養成課程	看護師3年(修業年限3年)
教員数	10名	学生数	1学年 35名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 開設34年目の本校は、中空知の地域センター病院である砂川市立病院附属の養成所である。 		

背景・課題

- 本校では、以前は学年担任教員1名が1クラス35名をフォローする体制をとっていたが、きめ細やかな対応が難しいという課題があった。
- また、本校には地元の高校生だけでなく、遠方の方や社会人の方など、多様なバックグラウンドをもつ方が入学している。多様な方が入学している分、学年を超えた縦の交流は少なくなりがちであった。
- そこで、学生に対するきめ細やかな対応や、学年を超えた縦の交流の促進を目的として、8年前に「チューター制度」を導入することとした。

取組の実施内容

- 本校における「チューター制度」は、3学年を10グループに分けるというものである。1グループは、1年生・2年生・3年生から各3～4名+教員1名で構成される。
- 学習支援だけでなく、学生生活全般における困りごとへの対応や、精神的な支援を目的とした制度である。そのため、学生がより安心して困りごとを相談できるよう、学生ごとの特性や、学生間の相性なども考慮しながら適正なグループ編成となるよう心掛けている。

取組開始後の効果・成果

- 日々の困りごとを改まって教員に相談するのではなく、先輩等に気軽に共有できるという環境が、今の学生のニーズにあっていると感じる。
- また、先輩が後輩に看護技術を教えたり、先輩と後輩と一緒にボランティア活動を行ったりする等、学年を超えた縦の交流の促進にも役立っている。

4年制を活かした教育内容

基本情報

学校名	奈良看護大学校	養成課程	看護師3年(修業年限4年)
教員数	13名	学生数	1学年 60名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は平成26年の奈良県立病院機構の設立に伴い開校し、令和4年のカリキュラム改正を機に4年制に変更した。 		

背景・課題

- 4年制への移行は、看護の質向上、地域に貢献できる実践力のある看護師養成が狙いであり、1年間のゆとりを活かしたカリキュラムとした。具体的には、経営学、教育学、コミュニケーションリテラシー、各領域の技術演習を重視している。加えて、4年時には後輩を指導できることが期待されている。
- 患者さんとの信頼関係構築、情報収集においてコミュニケーションが大事であるが、コロナ禍の影響で、若者のコミュニケーション能力は想像以上に障害となっていたことも問題意識としてあった。

取組の実施内容

- 4年制への移行に伴い、演習系の科目を追加した。本校で実施しているコミュニケーションリテラシー教育では、一般的な対人関係コミュニケーションだけでなく、1年生は手話、2年生は筆談カフェなどの仲介物を使っての心の表現を身に着け、4年生ではアンガーマネジメントを含めた医療コミュニケーションを学ぶ。
- 各領域の技術演習は1年生は基礎看護技術、2年生は成人看護学、老年、3年生は精神看護学、母性看護学、小児看護学領域を学内で演習を十分に行ったうえで、臨床実習を行う。さらに3年生はフィジカルイグザミネーションを学び、4年生は臨床推論を学ぶ他、OSCEも実施している。
- 4年生の臨床教育実習では、1、2年生の基礎実習の企画、準備を教員と一緒に経験している。しかし、導入1年目の4年生は、前例がなく混乱やストレスがみられたため、まずは教員のシャドーイングを取り入れた。
- 4年制化にあたっては「奈良看護」をキーワードに地域に活かすことのできる「実践力」を身につけることに注力した。具体的には演習時間の確保と学内演習の充実、臨地実習時間確保、奈良の保健医療福祉の理解や地域でのフィールドワークに取り組んでいる。

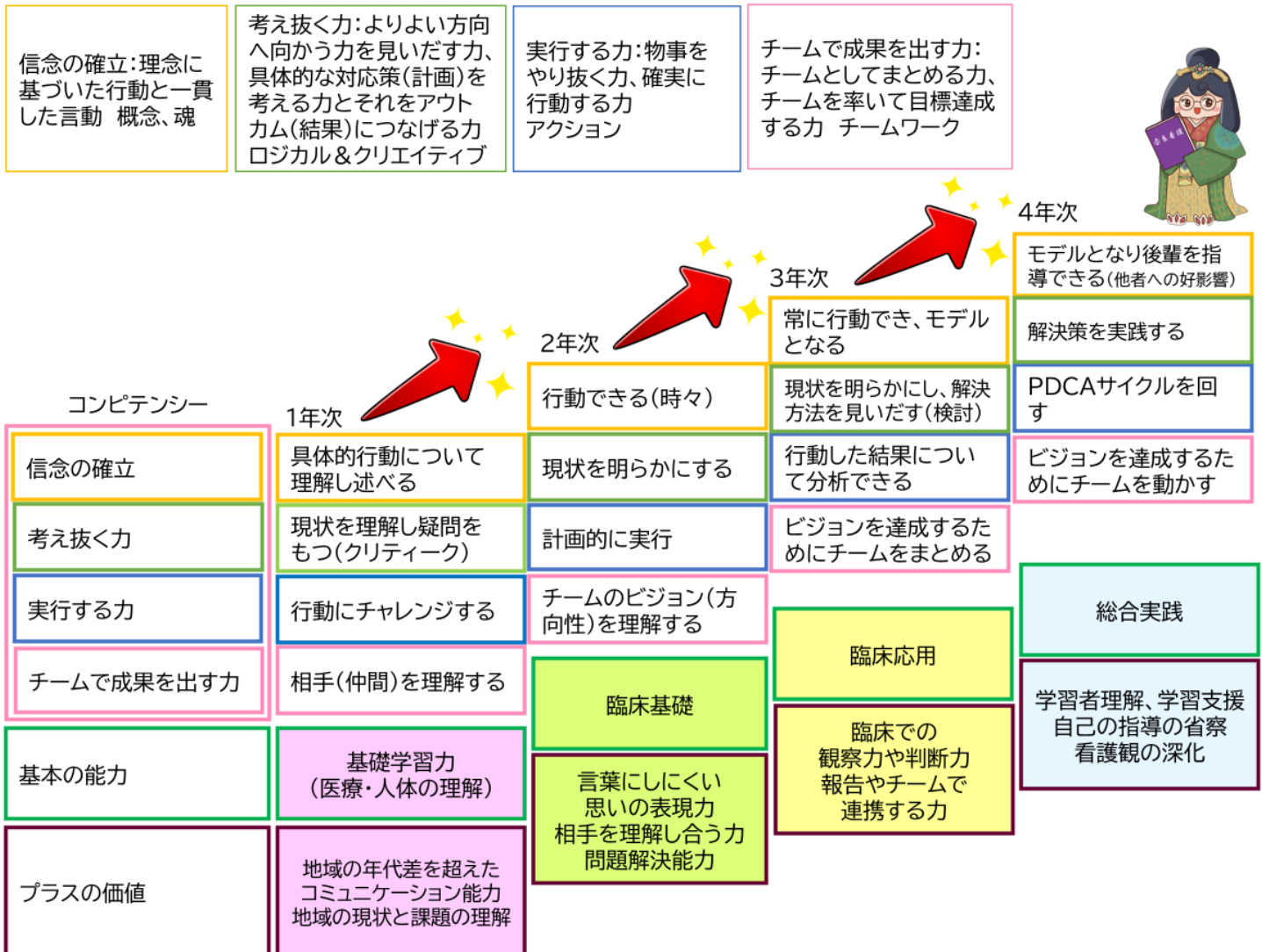
取組開始後の効果・成果

- 4年制への移行後、注力したコミュニケーションリテラシー教育によって、患者との信頼関係構築、情報収集で重視されるコミュニケーション力を高めることができています。

4年制を活かした教育内容

取組の実施内容

奈良看護カリキュラム(抜粋)



地域づくりを学ぶ 「地域の未来プロジェクト」

基本情報

学校名	ポラリス保健看護学院	養成課程	統合カリキュラム(保健師・看護師)
教員数	17名(専任16名、兼任1名)	学生数	1学年 40名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 昭和52年(1977年)に財団法人星総合病院附属高等看護学院開設。以来、「荒海孤舟北極星」を建学の理念として、地域住民の健康や人生の「現在」ばかりでなく、「過去」と「未来」をつなぐ健康づくりと地域づくりに深く関与する看護職を育成している。 1998年度から保健師・看護師統合カリキュラムを導入している。以降、長年にわたり多数の卒業生を輩出しており、卒業生の8人に1人は保健師として就業している。 		

背景・課題

- 令和4年度より適用されている新カリキュラムにおいて「地域・在宅看護論」が導入される以前から、本校では入学後すぐに地域に向く学習を展開していた。低学年の段階から地域・在宅実習を積極的に実施し、高学年になると保健師の実習が本格化していくカリキュラムであり、1年次から4年次まで常に学生が地域住民と関わる教育を行ってきた。
- そのような中、令和4年度より適用されている新カリキュラムにおいて「看護を創造する力」の育成に注力することが示されたことを受け、本校でもカリキュラムの更なる追加・強化に向けた検討を実施した。
- 「変化の激しい予測不能な社会」や「多様性の社会」が到来し、看護の対象が地域のあらゆる場所へ広がってきている。今後は、地域で必要とされる新たな看護を柔軟に創造し、提供できる力が必要と考えており、そのための新しい教育の試みとして「地域の未来プロジェクト」を立ち上げることとなった。

取組の実施内容

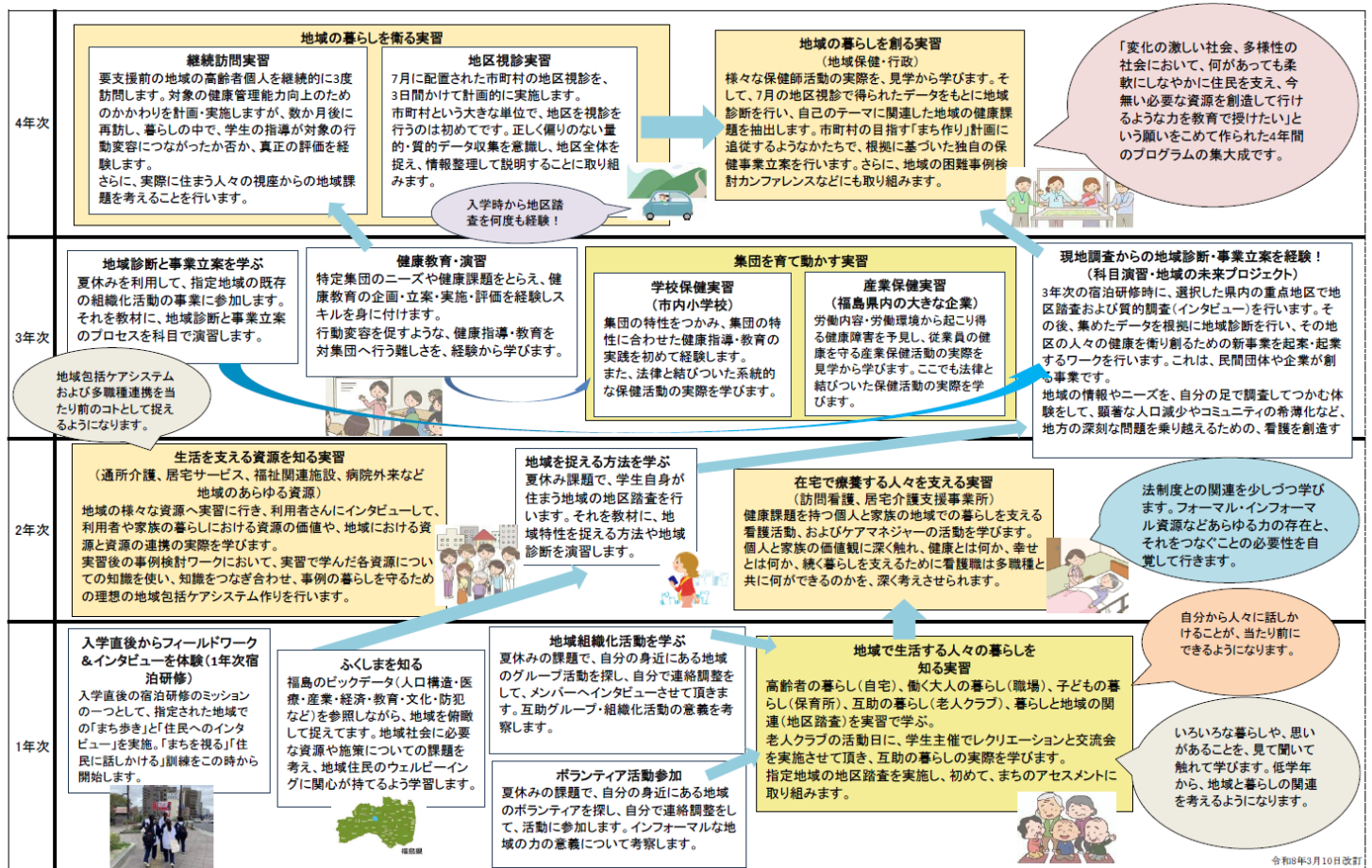
- 「地域の未来プロジェクト」では、3年生を対象に、「地域・在宅看護論」の演習と、3年次宿泊研修を組み合わせた学習を展開している。
- 本プロジェクトでは、学生がグループに分かれて、県内の過疎や復興などの課題を抱える地域の中から重点地域を決定し、地域への宿泊を含めたフィールドワークを行っている。重点地域の様々な人や組織に質問を重ねて地域診断を行った上で、地域が必要とする社会資源を検討し、企画や立案、各グループでの発表を実施している。
- また、本プロジェクトでは、学生が主体的・意欲的に学ぶための工夫を重視している。重点地域を訪問する前に半年ほど学生自身が企画・準備をするための期間を設定している。訪問する地域は学生が自ら選定しており、教員は地域選定後に自治体や社会福祉協議会等へ連絡・調整する形である。

地域づくりを学ぶ 「地域の未来プロジェクト」

取組開始後の効果・成果

- 「地域」とは、広く見えにくく、捉え難いものである。事前学習でデータから「この町はどんな町であるか」を推測し、実際に課題地域を訪問する取組を通じて、学生が「地域」をより捉えやすくすることにつながっている。学生からも「ネットの情報だけでは地域を知ることではできなかった。実際に行って人々と話すことで、本当の地域の姿を捉えることが出来ると学んだ」という声が挙がっている。
- また、事業立案においては、現実的な思考も重要である。課題を抱える地域の厳しい現実を目を向けさせることで、厳しい状況下であっても、今ある資源を使い、価値あるものを創造する力の育成につながっている。常に持続可能性を目指す思考が鍛えられている。
- 令和4年度より適用されている新カリキュラムにおいて「学生が主体的に学ぶことができる教育方法の推進」が示された。本プロジェクトはまさに、学生が主体的に考え、行動し、学ぶことにつながっている。

住民の暮らしを支えるための4年間の段階的成長図〔保健師教育版〕



令和8年3月10日改訂

母体病院や地域特性を活かした実習展開

基本情報

学校名	浜田医療センター附属看護学校	養成課程	看護師3年(修業年限3年)
教員数	11名(教務助手含)	学生数	1学年 40名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和28年の開設以来、当地から島根県のみならず全国の医療機関に多くの卒業生を輩出してきた伝統ある看護学校である。隣接する浜田医療センターは、高度急性期医療を担う島根県西部の中核病院であり、多くの卒業生が勤務している。 		

背景・課題

- 本校は昭和28年の開設以来、当地から島根県のみならず全国の医療機関に多くの卒業生を輩出している伝統ある看護学校である。隣接する浜田医療センターは、高度急性期医療を担う島根県西部の中核病院であり、多くの卒業生が勤務している。
- 浜田医療センターでの病院実習では、学校の教員と浜田医療センターの看護師が共同して学生一人ひとりを大切に教育しているほか、授業や実習だけではなく、普段の生活を通して、自分自身、同僚、先輩、後輩、教員、家族との真摯な対話の時間を大切に教育を実践している。
- 現代の医療ニーズに対応するコミュニケーション能力の育成と地域が求める多職種と協働して病院から地域に至るまで切れ目ないケアを提供できる力を身につけるため、中山間地域での実習にも力を入れている。

取組の実施内容

- 本校では中山間地域を訪問する実習を導入している。当地域では石見神楽が有名であり、地域を理解するために、1年次の前期に「地域と暮らし」の授業において各グループが地域でのフィールドワークを行っている。結果は発表形式で共有している。地域の福祉施設の訪問に加え、文化や生活、伝統行事などにも着目したフィールドワークを行っている。
- 1年次後期においては、地域を概論的に把握する授業を行っており、学生たちが看護師として地域にどのように関わっていくか発表する取組も行っている。中山間地域での診療所に加え、民泊実習も導入している。民泊実習では、地域住民と生活を共に過ごすことによって、診療所と地域の関わり方などについても学ぶことができる。学生は高齢住民と交流を通じ、人と接する際に重視すべき事項などが醸成されていく。
- 2年次の前期では「地域で暮らす人を支える仕組み」という授業で実習を行っており、地域包括ケアや行政機関など地域住民の生活を支える仕組みについて地域を訪問してフィールドワークを行っている。
- 地域住民が模擬患者となる授業や、地域住民が授業や発表会に参加して、学生と交流をもつ取組も導入している。中には、地方議会の議員や行政職員にも授業に参加してもらい、政治や地方行政についてもディスカッションしている。

母体病院や地域特性を活かした実習展開

- また、本校の特色として、国立病院機構のネットワークを活用した充実した実習環境で看護実践を学ぶことができることが挙げられる。隣接する母体病院でもある浜田医療センターで主な看護学実習の単位が修得でき、安心して専任教員に相談できる環境が整っている。全員が救命救急センターや手術室での看護体験実習や分娩の立ち会いを行っている。
- 母体病院である浜田医療センターでは、小児や母性領域も含めて実習が可能であり、当該領域においても、実習が難しくシミュレーションで代替することはない。
- 本校は母体病院と月1回、実習指導者会議を開催しており、学生の状況を共有している。その結果、実習の受け入れは円滑に行われている。母体病院の実習指導者は、本校で授業や技術演習に携わる機会もある。その結果、学生のレディネス¹⁾を把握でき、実習場での学生に合わせた関わりにより、学生のドロップアウト予防につながっている。
- なお、実習期間中における学生の毎朝の体温など体調管理は、アプリケーションを導入してスマートフォンを用いて電子管理している。感染症が拡大しないように工夫している。また、実習に訪問する学生の心構えにもつながっている。紙でのやりとりだと、手間もかかり、学生を待つ時間も必要となる。そうした時間を省略することができる。

1) 学習者の学習課題に対する身体的・精神的・社会的成熟、既習の知識・技術・態度と経験に関わる準備状態

取組開始後の効果・成果

- 中山間地域実習は、学生からの評価も高く、学生にとっては本校入学志望動機の1つとなっており、学生確保にも貢献している。
- 地域実習は学生にとって学習効果が大きいだけでなく、本校の存在意義・役割を地域住民に知ってもらう機会になっている。



中山間地域での実習



地域住民との交流

学生の状況に合わせた実習先の選定

基本情報

学校名	専門学校麻生看護大学校	養成課程	看護師2年(通信制)
教員数	10名(通信課程担当)	学生数	1学年 250名
<ul style="list-style-type: none"> 1918年(大正7年)に創立された専門学校麻生看護大学校は、九州を代表する看護師養成所である。看護師教育一筋で100余年教育に携わり、長い歴史と培われてきた伝統と信頼が今も脈々と継承されている。 			

背景・課題

- 通信課程の学生は、九州全域(九州以外も一部含む)から入学しており、多様な地域に居住する学生に学びを提供している。定員が多いことに加え、9割以上の学生は働きながら学んでいることから、当該年度の入学生の居住地および人数等の状況を踏まえ、実習場所の配置について調整を行い、適切に設定することが必要である。

取組の実施内容

- 2年課程(通信制)における臨地実習は、指定規則に基づき、二日間の病院見学実習に限られているという教育課程上の特性を有する。このため、実習施設である医療機関・施設に対しては、実習の目的、内容および学生の状況等について、教員が直接訪問のうえ、十分な説明を行うことで理解の促進に努めている。県の看護協会にも情報を共有し、適切な実習施設の確保に向けて整備を図っている。
- 厚生労働省「看護師養成所2年課程(通信制) 教員研修ツール使用ガイド」を活用し、二日間の病院見学実習と、紙上事例演習・面接授業との関連性を明確にした上で、学習の連続性を担保できるよう教育上の工夫を行っている。

学習スケジュール

学習スケジュール

ASOなら面接授業や病院見学実習などの日程が分散しているので、働きながら学習しやすい環境が整っています。

	1年目												2年目												国家試験	卒業			
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月					
紙上事例演習 (臨地実習) 自宅で作られた対象者の情報からアセスメント、問題の明確化、看護計画の立案を行い、レポートを作成します。	4月～6月 ●基礎看護学			6月～9月 ●成人看護学						8月～11月 ●老年看護学			11月～1月 ●小児看護学			3月～5月 ●精神看護学			6月～8月 ●看護の統合と実践										
病院見学実習 (臨地実習) 本校指定の実習施設で2日間連続の見学実習を行います。実際に行動している看護活動を見学し、対象理解や自身の看護観を深めます。				7月～9月の3ヶ月の間で、2日間の見学に行きます。			10月～1月 ●成人看護学 2日間			7月～9月 ●基礎看護学 2日間			10月～12月 ●老年看護学 2日間			4月～7月 ●小児看護学 2日間			7月～10月 ●看護の統合と実践 2日間			4月～8月 ●母性看護学 2日間			10月～12月 ●看護の統合と実践 2日間				
面接授業 (臨地実習) 教員による講義となります。また、学生間でのディスカッションの中で自分の考えを発信し、他者の考えや学びを共有していきます。	5月 ●基礎看護学① 1日間		7月 ●成人看護学① 1日間		9月～10月 ●基礎看護学②③ 2日間		11月 ●小児看護学① 1日間		1月～2月 ●成人看護学②③ 2日間		3月 ●母性看護学① 1日間		4月 ●精神看護学① 1日間		6月 ●看護の統合と実践① 1日間		7月～12月 ●精神看護学②③ 2日間		●小児看護学②③ 2日間		●母性看護学②③ 2日間		●地域・在宅看護論②③ 2日間		●看護の統合と実践②③ 2日間				

出所:麻生看護大学校からの提供資料

取組開始後の効果・成果

- 通信課程特有の病院見学実習について、実習施設や関連機関への丁寧な説明を通じて、理解・協力が得られている。病院見学実習と紙上事例演習・面接授業の連続性も担保され、学習効果の最大化につながっている。

実習先との綿密な連携

基本情報

学校名	朝霞准看護学校	養成課程	准看護師
教員数	5名	学生数	1学年 30名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は1967年の開校以来、現在まで約1800名以上の准看護師を送り出している。 教育内容として看護者の「手」から伝える看護を意識した教育を行っている。 		

背景・課題

- 本校は、地域と連携し地域に根差した教育を以前から実践してきた。
- 本校では、機械化が進んだ現在の医療にあっても、患者に寄り添った、看護者の手を用いた温かい看護を実践する看護者の育成を目指しており、本校独自のカリキュラムに基づいて講義、演習、実習を行なっている。
- 学生の年齢層が10代～50代と幅広く、50歳代、60歳代ではこれまでの人生経験、社会人経験から培ってきた想いが強く、看護学生としての姿勢に対する指導に抵抗を示すこともある。

取組の実施内容

- 本校は看護者の「手」から伝える看護の実践者となれるような技術教育を実践している。
- 看護師と比べると自律的判断の範囲は限定されるものの、現場で対象に必要な看護者の手を用いた心地よいケアの実践、基礎的ケアはしっかり担えるようにカリキュラムを設計している。
- 本校では外国人など様々な特性を持つ生徒を受け入れ、支援している。特定の学習能力に困難があった生徒や、コミュニケーションに課題を持っていた生徒が、卒業後に適材適所で自分の長所を活かして地域に貢献している姿から、個々の生徒が持つ成長の可能性を教員の主観で諦めず、個性に応じた個別指導を強化している。
- 特定の学習能力に困難がある生徒や外国人の実習受け入れに際しては、特性に応じた配慮を要する点、当該生徒にとっての目標を実習指導者と共有し、引率教員が重点的に指導を行なっている。
- 実習では小児がん支援活動、イベントでの救護活動、防災・災害時の避難啓発などに参加し、五感を刺激する活動を通して感性を深めている。
- 10代から60代まで様々な年齢層の生徒が協力し合いを学んでいる。
- 50代60代の学生がこれまで培ってきた経験を活かしつつ、医療現場に適応できるように支援している。

取組開始後の効果・成果

- 生徒からは、「実習で手当学を実践することによって、患者さんの変化を直接感じ取ることができた」「手当学を実践する実習は朝霞准看護学校でなければできない体験だった」等の声が挙がっており、本校が培ってきたものが生徒たちに受け継がれている。
- 本校に愛着をもつ卒業生が多く、卒業生が教員になるケースも多い。そのため、本校の理念や方針が継承されやすい環境が生まれている。

遠隔授業等を活用した 合同カリキュラムの実施

基本情報

学校名	浜田医療センター附属看護学校	養成課程	看護師3年(修業年限3年)
教員数	11名(教務助手含)	学生数	1学年 40名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和28年の開設以来、当地から島根県のみならず全国の医療機関に多くの卒業生を輩出してきた伝統ある看護学校である。隣接する浜田医療センターは、高度急性期医療を担う島根県西部の中核病院であり、多くの卒業生が勤務している。 		

背景・課題

- 令和4年度より適用されている新カリキュラムにおいて、遠隔授業の活用が打ち出されたところである。
- 本校では、国立病院機構に属する他の看護師養成所と連携し、遠隔授業等を活用した合同カリキュラムの構築を進めている。

取組の実施内容

- 島根県・広島県・山口県の国立病院機構に属する看護師養成所3校が連携し、合同カリキュラムを構築している。
- カリキュラムの一部は遠隔授業を活用して合同授業を実施している他、電子テキスト、LMS(Learning Management System:学習管理システム)を活用し、講義資料のダウンロードや講義動画の再視聴ができる環境を提供している。
- 遠隔授業は、主に基礎分野(生活科学、情報科学など)や専門基礎分野(生化学、病理学総論など)の科目で活用が進んでおり、専門性の高い講師を選定し、効果的な授業を展開している。
- その他、シミュレーションルーム¹⁾、スマートグラス²⁾を活用したレクチャー、オンラインシェアボード³⁾等も導入しており、教育効果向上と業務効率化に努めている。

1)シミュレーションルーム:常時開放されており、フィジカルアセスメントや動作分析システムによる自己の動作振り返りができるルーム

2)スマートグラス:講師が着用することで看護師視点または患者視点をインタラクティブボードや学生個々のPCに投影できて学べるツール

3)オンラインシェアボード:連絡事項や画像、PDFがオンラインで変更追加できて、学生とのコミュニケーションが行えるツール

遠隔授業等を活用した 合同カリキュラムの実施

取組開始後の効果・成果

- 合同授業においては、学生がディスカッションを行いながら進めるような授業もあり、コミュニケーション能力の向上につながっている。解剖生理学の授業では、オンラインで動画を用いて授業を進めるため、臨床判断能力の向上にも寄与している。
- また、グループで行う演習の様子を撮影し、後から振り返りや話し合いができるようにしている。1度目の演習を行った後に、各グループで録画を見ながら「どの点が良かったか」「どの点を改善すべきか」を話し合い、2回目の演習で改善・向上できるよう努めている。
- 3校合同カリキュラムの運用により、外部講師の確保や謝金負担軽減、教員の負担軽減にもつながっている。
- 遠隔授業やその他のICTを取り入れることにより、全国どんな場所の看護師養成所であっても、最先端の教育を提供できるようになっている。

合同カリキュラムの概要



多職種連携を意識した合同授業

基本情報

学校名	四条畷看護専門学校	養成課程	看護師2年(全日制)
教員数	8名	学生数	1学年 40名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は「豊かな人間性を養い、専門職業人として広く社会に貢献できる看護師の育成」を理念とし、地域の保健医療福祉へ貢献できる主体性のある看護実践者を育成している。 		

背景・課題

- 本校運営の学校法人ではリハビリテーション専門学校も2校運営しており、本校と同じ母体病院で学生が実習していた。
- 医療の高度化に伴って医療現場では以前にも増して多職種の連携が重要視されており、新カリキュラムでも多職種連携がポイントとなる地域・在宅領域が重視されている。

取組の実施内容

- 地域・在宅看護が重視される新カリキュラム導入を契機に関連校と議論し、令和4年より同じ病院で実習している2校3学科合同の授業を開始した。
- 理学療法士、作業療法士を目指す学生との合同授業であり、1年生の1月ごろに実施するプログラムでは、15時間(7コマ)の授業となっている。
- 共通の目標を設定し、多職種がどのような連携を行うべきか意識づけを行うため、一つの事例をもとにグループワークを重視した授業を実施している。

多職種連携を意識し、リハビリ校と合同グループワーク

地域の人たちの暮らしと健康を守るために多職種が連携・協働することが求められています。本校では、関連校である作業療法・理学療法学科の学生と合同授業を行い、チームアプローチについて学んでいます。



取組開始後の効果・成果

- 多職種とのコミュニケーションの機会を創出するとともに、保健医療福祉チームの一員としての役割や責任の意識醸成に寄与している。

経営理念の浸透

基本情報

学校名	厚木看護専門学校	養成課程	看護師3年(修業年限3年)
教員数	21名	学生数	1学年 80名
特徴	<ul style="list-style-type: none"> 本校は昭和43年設立で、神奈川県総合リハビリテーション事業団の基本理念に基づき、看護師を育成している。 		

背景・課題

- 看護師育成という社会的使命を果たすためには、学校が安定的・継続的に教育活動を維持できることが前提となる。そのためには、経営理念を全教職員が共有し、同じ方向に向かって行動できる組織づくりが不可欠である。
- 世の中の不確実性が高まる中、学校運営は従来の延長では通用しない。理念と戦略を全員が理解し、組織として戦略的に動ける「組織能力」を高めることが課題である。
- 本校の実績やブランドは教職員全員の行動で形づくられる。理念に基づき、一体となって変化に挑むことで、持続的な発展につながる。

取組の実施内容

- 学校経営会議の下部組織として授業改善会議や学生確保会議を早期に整備するとともに、教職員全員がいずれかの下部会議に参画する仕組みを構築した。
- その他にDXプロジェクト、SDGs推進のサステナビリティ・アクション会議、eラーニング導入や7月・8月を休校とするsmartラーニングの導入にむけたカリキュラム検討会議等を設けている。

厚木看護専門学校のビジョン

本校の使命 Mission	中長期的展望 Vision	私達の共有価値 Value	私達の約束 Promise
21世紀の看護教育を創る 地域医療を進める	ATSUKAN VISION 2030 1 経営と教育の質を高める定員管理 2 少人数制の個別最適化学習の実現 3 SOCIETY 5.0に対応する 教育DXの推進	1 学生ファースト 私達は常に学生を第一に考え、学生の立場に立ちながら、学生と出逢いの双方にとって最良の結果を追求する 2 学習する 私達は主体的に学習する。越境して知見を広げ、専門性を探究し行動を成長軸に変化させる 3 共有する 私達はあらゆることを共有する。情報・スキル・感情・問題を仲間を産んで発信し、チームで仕事の成果をあげる 4 余力を生み出す 私達は余力を生み出す工夫をする。余力はイマジネーションの源泉。余力は変化とチャンスに対応する糧となる 5 改善を続ける 私達は改善を続ける。どんなに小さな仕事にも進化のための工夫をし明日のイノベーションの種をまく	1 こころを使った報・連・相 2 決めたルールは徹底して守り 3 異をとええることを恐れず 4 挑戦し 5 一段上の仕事を 6 感謝を伝えあい 7 皆で責任をとる

出所:厚木看護専門学校からの提供資料

取組開始後の効果・成果

- 下部会議では経営理念を基盤に議論を行うため、理念に触れる機会が多く、教職員に経営理念が浸透している。
- ICTによるタイムリーな報告・連絡・相談が行われており、また、ゆとりの時間でスタッフと管理者の対話の機会を十分に確保できている。現場の意見を成功体験につなげる支援体制が機能している。
- 新しい発想を尊重し、まずは挑戦を後押しする。その実現を支援する風土が定着しており、本校の大きな強みとなっている。

事業名

令和7年度厚生労働省委託事業
「地域強化型看護基礎教育カリキュラム調査検証事業」

発行年月日

令和8年3月31日

